

平成29年度25期校友会第3回合同事業

「真田ゆかりの地日帰り旅行」

“時代を駆け抜けた真田氏三代の武将の郷を訪ねる旅”

本年度の第3回合同事業として「日帰り旅行」が実施されました。

日時：9月27日（水） 午前8時30分より午後6時

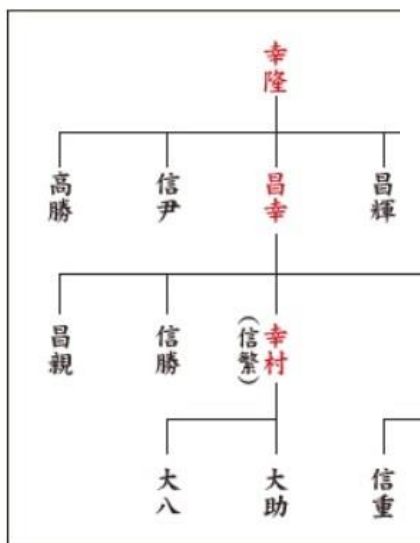
参加者：8名（福祉3名、ふる伝1名、美工4名）

天候不順だった今年の夏も終わり、涼しさが一段と増した9月27日、25期校友会の合同事業である研修会が、信州長野の「真田の郷」への日帰り旅行として実施されました。

幸村（*）が生まれ育ったこの郷は周囲を小高い山々に囲まれ、大変落ち着いた雰囲気地域です。

*本名は信繁、江戸時代に真田物語が作られたときに徳川に抵抗した信繁の名は使えなかったため、幸村と創作され、その後この名が独り歩きし今日に至っているとのこと。NHK大河ドラマで本名が使われたので、大分知名度はあがったようです。

真田家系図



○ 真田 幸隆（さなだ ゆきたか）（1513～1574）

真田氏中興の祖。一時、真田の地を追われたが、「砥石城乗っ取り」の功績で再び旧領を取り戻す。武田信玄のもとで活躍し武田二十四将にも数えられる。武田軍の先方衆として信濃、上野方面の戦いで手腕をふるった。



○ 真田 昌幸（さなだ まさゆき）（1547～1611）

幸隆の三男。武田信玄の側近として仕え、兄（信綱・昌輝）が長篠の合戦で戦死したため、真田家を継いだ。武田家滅亡後、織田、上杉、北条、徳川らが群雄割拠する大勢力の中を生き抜いた。特に二度にわたり徳川軍を打ち破った上田合戦は真田の武名を天下に轟かせた。



○ 真田信繁（幸村）（さなだ のぶしげ）（ゆきむら）（1567～1615）

昌幸の次男。第二次上田合戦の後、昌幸とともに紀州・九度山へ流される。大坂夏の陣では赤備えの軍団を率いて父親譲りの智略を発揮し、徳川勢を苦しめた。

とりわけ、徳川家康の本陣を突き崩したことから、その活躍を「真田日本一の兵（さなだひのもといちのつわもの）」と称賛された。



日帰り旅行行程表：

東松山駅西口 ⇒ 東松山 IC ⇒ (関越道・上信越) ⇒ 上田菅平 IC ⇒ 信綱寺		
8:20		10:10~10:30
⇒ 山家神社	⇒ 長谷寺	⇒ 真田氏本城跡
10:40~11:10	11:20 11:50	12:00~12:30
⇒ 真田氏歴史館・真田庵(昼食)		⇒ 砥石・米山城跡
12:30~13:45		14:00~14:30
⇒ 大松農園・りんご狩り	⇒ 上田菅平 IC ⇒ (上信越・関越)	⇒ 東松山駅西口
14:45~15:30		17:45

① 信綱寺(しんこうじ)

最初に訪れたのは室町期の創建で、幸村の先祖幸隆の長男・信綱公夫妻と次男の昌輝の墓がある信綱寺でした。

信綱は長篠の戦いで戦死し、その首級が家臣の手で陣羽織に包まれ鎧と共に墓前の桜の木の下に葬られたという言い伝えのある由緒あるお寺です。



墓前の桜



中央が信綱、左が信綱の妻、右が昌輝



信綱寺案内板の前で。



信綱寺山門で記念写真



墓前の桜の先の信綱寺の境内、
本堂前で記念写真



②山家神社・真田神社



鳥居



二番目に、創建が平安初期よりも古いと考えられ、山岳や水の神様として崇められ、真田一族はもちろん代々の上田城主にも氏神様として暑く崇拝されているなど、豪族から一般民衆に至るまで親しまれてきた「山家神社」を参拝しました。

境内にはかつて白山寺という寺院が建てられていましたが、明治維新の神仏分離令によって廃寺となりました。その後、跡地には真田神社が建立されました。



山家神社本殿前で記念写真



真田神社鳥居



当、真田神社には、真田一族と戦没者の英霊を祭神として祭っております。



真田神社鬼瓦

③長谷寺 (ちょうこくじ)

三番目には、武田軍随一の謀将・真田幸隆の菩提寺で、境内には幸隆夫妻と昌幸（幸村の父）の墓があり、六文銭が刻まれた石造りの山門としだれ桜が有名な長谷寺を訪ねました。

長谷寺は昔、種月庵と呼ばれていましたが、天文16年（1547年）真田幸隆が晃運和尚を開山として迎え、真田山長谷寺を創建、菩提寺としました。昌幸の代を経て元和8年（1622年）信之が松代へ移封となり、同地へ長谷寺を建立したので、現在はその末寺となり今日に及んでいます。



石造り山門前で



春になれば、この桜が見られました。



「大わら馬」
高さ2m、長さ3m。
昨年元旦に大河ドラマ「真田丸」の放送に合わせて地元の方々が開いた「真田の郷新年祝賀祭」の一環で作られ、昨年の12月に供養とお焚き上げがありました。これは今年作成されたもの。

④真田氏本城跡



真田城跡895m

四番目に、上田城築城以前の真田氏の本拠地と考えられている「真田氏本城跡」へ向かいました。この場所は真田地域の中央に位置し、上田街道や松代海道、上田市街が一望に臨める高台に位置する素晴らしいところでした。

発掘調査によると鎌倉時代の古い様式が見られ、真田氏以前にも山城が存在していたと考えられています。他の山城に比べ規模が大きく、自然の地形を生かした厳重な防備となっており、上田盆地への眺望が開かれた山城だったようです。

真田山城、松尾新城、住連寺城、十林寺の城山などとも呼ばれています。



真田氏本城跡の標識を囲んで



眼下の上田市街をバックに



NHK大河ドラマ「真田丸」第3回「策略」にて、信繁（幸村）ときりが贈り物のクシについて話すシーンで登場。

現在は、二人が座った丸太と隣に木の椅子が用意され、真田の郷から上田市方面が見渡せるようになっています。

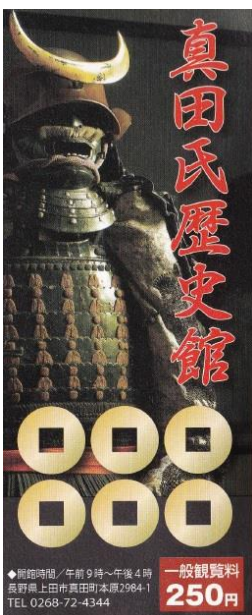
⑤昼食・そば処真田

真田氏歴史館のお兄さんが紹介してくれた手打ちの真田蕎麦の店。当初予定の真田庵から変更して大成功でした。量は普通盛りが埼玉近辺の蕎麦屋の大盛り以上、てんぷらがついて1330円。味・量・値段とも満足でした。



⑥真田氏歴史館

六番目に、真田家三代の活躍の歴史が学べる「真田氏歴史館」を訪れました。武田二十四将として活躍した真田幸隆をはじめとする真田一族の歴史を古文書や武具の豊富な資料で紹介しています。蕎麦屋を紹介してくれたお兄さんが懇切に説明してくれました。



入場料を準備している仲間。昨年より50円上がっている。



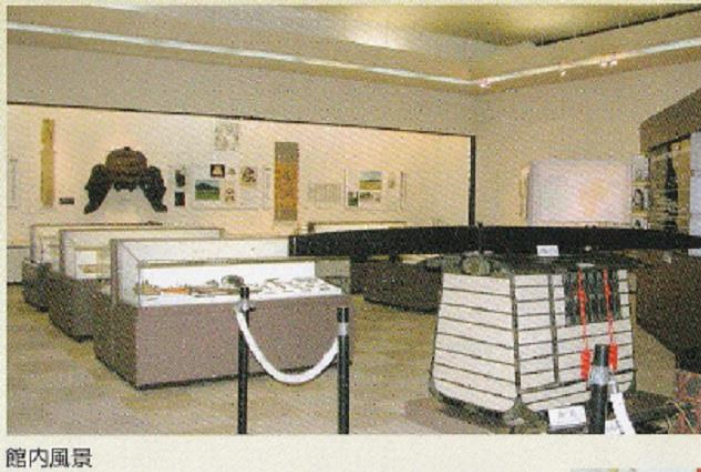
展示場入口に飾ってある大河ドラマ「真田丸」の記念写真等。



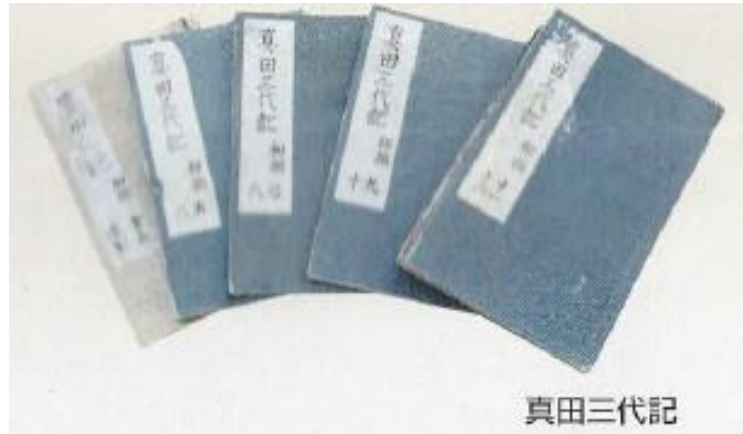
真田幸村公銅像前で。



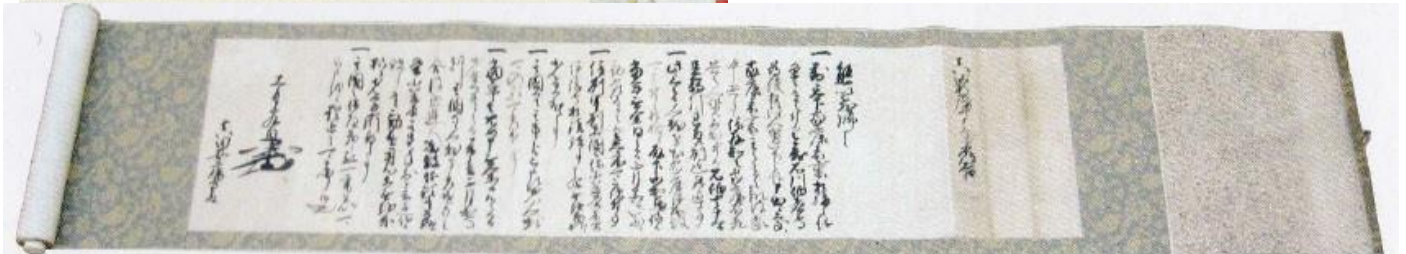
以下の写真は、展示されているものの一部を案内書から転載（展示場内は写真不可）



館内風景



真田三代記



天正13年(1585年)真田昌幸宛 豊臣秀吉書状



大阪夏の陣図屏風（複製）

⑦砥石米山城跡

(といしこめやまじょう)

今回の真田の郷めぐりの最後の史跡が、砥石米山城でした。
東太郎山尾根に築かれた山城で枳形城・砥石城・米山城を総称して「砥石城（砥石米山城）」と呼ばれています。

- ・武田信玄が豪族村上義清を攻めて総崩れとなった「砥石くすれ」の舞台です。
- ・武田家臣となっていた真田幸隆は信玄が大軍をもっても攻略できなかった砥石城を「砥石崩れ」の翌年、調略を用いた知謀戦により一日で陥落させたと言われています。
- ・真田昌幸による上田城築城後もここは重要な支城とされ、第一次上田合戦では真田信之が砥石城から出陣し、徳川軍に攻撃を仕掛け、徳川軍を払いのけ、信濃に真田ありと知らしめました。
- ・第二次上田合戦では、砥石城に陣をはった真田幸村が、徳川側に付いた信之との戦いをさげ簡単に明け渡したとされる城でもあります。



砥石米山城の案内板の前で記念写真。

実は、右の石碑の“なめんなよ！”と城跡まで30分かかるとのこと
で、下から山の上の砥石城跡を眺めただけとなりました。

頂上まで登っていれば、下の写真のような景色を見られましたね。普段の鍛錬が必要です。

砥石・米山城は真田氏要の城
頂上より各拠点を眺望できます。

砥石城より神川・小牧方面

四阿より上田城

枳形より御屋敷・真田本城

⑧りんご狩り

日帰り旅行の最後に“りんご狩り”をしました。

りんご園は、歴史館近くの大松農園というところで、「サンつがる」と「つがるドルチェ」と言う2種類のりんごをお土産としました。おいしくて安かったです！



以上、“真田の郷”日帰り旅行の全工程を終え、無事東松山の帰路につきました。普通の観光では中々足を向けない史跡を訪ねることが出来、有意義で楽しい催し物でした。皆さん、お疲れ様。

写真：美工 野口忠雄、投稿文：ふる伝 細田 満